



つばさだより No.203

2011年10月



つばさ薬局 多賀城店	☎022(366)8001	吉川店	☎0229(22)7010
長町店	☎022(308)5711	泉店	☎022(772)1571
船岡店	☎0224(58)1065	若林店	☎022(289)8777
中新田店	☎0229(64)1888	松陽台店	☎022(361)9444
松島店	☎022(353)2990	こごた店	☎0229(31)2550
玉川店	☎022(365)2838		

心地よい秋風の季節となりました。秋の夜長をいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月は百日咳についてのお話です。以前は子供だけの病気と考えられていた百日咳ですが、近年成人患者が急増しています。

百日咳について

百日咳とは

百日咳は特有の咳発作を特徴とする呼吸器感染症です。百日咳菌への感染が主な原因です。

百日咳菌の感染経路は唾、咳、くしゃみなどによる飛沫感染、および接触感染です。咳の開始から3～4週間ほど感染力があります。

百日咳の患者数は、感染症発生動向調査が開始された1982年には23,675人の報告がありましたが、その後は着実に減少してきました。2005年が最も少なく、1982年と比較して約20分の1(1,358人)となりました。ところが、2006年からは増加に転じ始め、2008年には6,749人に上りました。また、百日咳にかかる患者の年齢も変化してきました。

百日咳はこれまで乳幼児を中心とした小児で流行する疾患とされてきましたが、最近では20歳以上の成人の患者が年々増加してきています。2000年では0歳児・1歳児の患者が約66%を占め、20歳以上は全体のわずか約2%でした。2004年頃から0歳児・1歳児は少しずつ減少し、20歳以上の患者が増加してきました。その増加は著しく、2008年には全体の3分の1を越え、2010年は患者全体(5,406人)の約半数を20歳以上が占めました。

では、なぜ成人の百日咳患者が増えてきているのでしょうか。

ワクチンの普及とともに百日咳の患者数が減少したため、百日咳菌に感染することで得られる免疫を持たない世代が増えました。ワクチンによる免疫の効果は生涯続くものではなく、ワクチンで獲得した百日咳に対する免疫は、成人期には減衰してしまいます。そのため現在の流行を招いていると考えられます。

症 状

症状の経過は「カタル期」、「痙咳期（けいがいき）」、「回復期」の3期に分けられます。

(1) カタル期

- 鼻水や咳、くしゃみ、微熱など普通のかぜ症状で始まります。
- 次第に咳の回数が増えて、症状も激しくなります。約2週間で痙咳期に移行します

(2) 痙咳期

- コンコンという短い咳が連続して出た後、咳の最後に息を吸うときに笛の音のような「ヒュー」という音がでます。
- 咳発作の時に粘度の高い痰も一緒にでることがあります。
- 発作は夜間に出ることが多く、咳き込みによって、顔面浮腫、嘔吐、結膜充血、などが起こることもあります。
- 発作は2～3週間程度続きます。

(3) 回復期

- 咳発作が次第に弱くなります。

・全経過2～3か月で回復します。

○生後6ヵ月未満の乳児の場合は、特徴的な咳がなく、単に息を止めているような無呼吸発作から低酸素状態や痙れんなどが起こることがあります。特に生後3ヵ月未満では重症化する可能性が高くなります。

○成人の百日咳では、咳が長期にわたり持続するものの、比較的軽症ですむことが多いです。そのため、診断や治療が遅れてしまい、その間に周囲の人々、特に乳児への感染源になることが問題となります。



治 療

百日咳菌に対する治療として、マクロライド系（エリスロマイシン、クラリスロマイシンなど）や、テトラサイクリン系（テトラサイクリン、ミノサイクリンなど）と呼ばれる抗菌薬が用いられます。早期に抗菌薬を服用すれば、症状の軽減と、周囲への感染期間の短縮が期待できます。

抗菌薬は通常2週間程度服用します。途中で抗菌薬の服用を中止すると、耐性菌となってふり返すことがあるので、症状が落ち着いても、必ず医師が指示した日数分を飲み切る必要があります。咳の症状に対しては鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張剤などが用いられます。

予 防

百日咳の対策として、ジフテリア・破傷風・百日咳（DPT）三種混合ワクチン接種があります。DPTワクチンが接種できるのは生後3ヵ月からとなっています。ワクチン未接種の新生児、乳児に感染すると、重症化し、命に関わることもあるので、生後3ヵ月になったら、できるだけ早期にDPTワクチンを接種することが勧められています。

標準的な接種法は以下の通りです。

【第1期初回接種】ジフテリア・破傷風・百日咳（DPT）三種混合ワクチンを生後3～12ヵ月間に、3～8週間の間隔で3回接種します。

【第1期追加接種】1期初回接種（3回）終了後12～18ヵ月後に1回追加接種します。

【第2期接種】11～12歳でジフテリア・破傷風（DT）二種混合ワクチン接種が行われます。第2期には百日咳ワクチンは含まれません。

（定期予防接種の対象や費用負担等、詳しくはお住まいの自治体の予防接種の担当部署にお問い合わせください。）

乳児への感染を防ぐためには、周囲の成人が感染源とならないように注意しなければなりません。

先にも述べましたが、ワクチン接種による免疫の効果は、一生続くものではありません。現在の接種法では、小児期に接種したワクチンの効果が成人期には減衰してしまいます。

そこで、成人の百日咳感染対策として、11～12歳を対象とした第2期接種で、DT二種混合ワクチンに替えて、DPT三種混合ワクチンを接種することが有効であると考えられていますが、日本ではまだ行われていません。

しっかりと手洗い、うがいを行うことや、咳エチケットは予防の基本です。

百日咳菌に感染している恐れのある人は、咳やくしゃみをする時にティッシュやマスクを口と鼻にあて、他の人への飛沫感染を防ぎましょう。

